

英語を母語とする日本語学習者における 日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について —非人為的事態の場合—

杉 村 泰

キーワード：日本語教育、英語母語話者、非人為的事態、自他動詞、受身

1. はじめに

本研究は英語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択意識について論じたものである。杉村（2013a:41）でも論じたように、日本語学習者にとって有対動詞（相対動詞）の自動詞・他動詞・他動詞の受身形の選択は、習得困難な項目の一つである。これは日本語において、自然力による事態なら自動詞、人為的事態なら他動詞、被動的事態なら受身を使うという単純な基準では捉えられないためである。杉村（2013a-d, 2014a-e, 2015a-d, 2016）では、日本語母語話者（以下「日本人」と呼ぶ）と中国語話者、韓国語話者、中朝バイリンガル、ウズベク語話者、クメール語話者の違いについて論じてきた。これに引き続き、本稿では英語を母語とする日本語学習者（以下「アメリカ（米国）人日本語学習者」と呼ぶ）の自動詞・他動詞・受身の選択傾向について論じる。このうち本稿では例（1）～例（3）のように事態の成立が自然現象によって起こる「非人為的事態」の場合について考察する¹⁾。

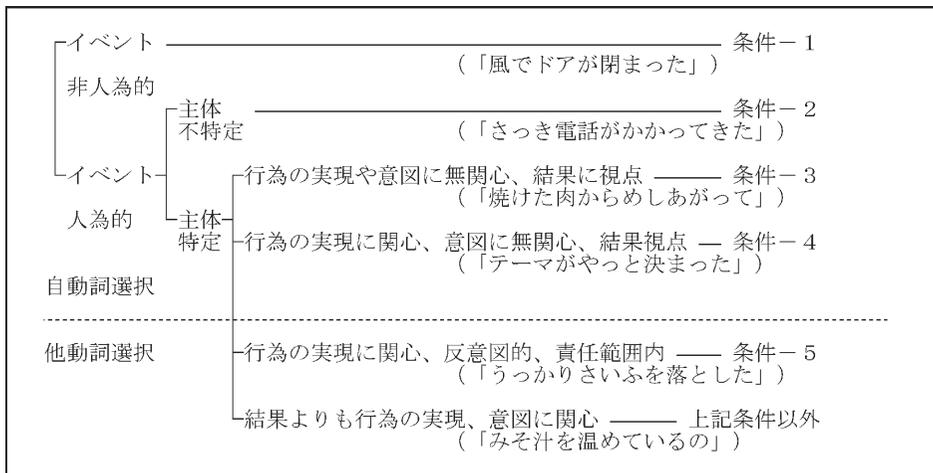
- (1) 電池が切れて時計が止まった。
- (2) 風でドアがバタンと開いた。
- (3) 火災で家が焼けた。

2. 先行研究

日本語学習者にとって有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択が困難であることは、守屋（1994）、小林（1996）、中村（2002）、曾（2012）など多くの先行研究で指摘されている。このうち、守屋（1994）は中級前半から中頃程度の学習者（中国語母語話者 60 名、韓国語母語話者 49 名、英語母語話者 21 名）を対象に、例（4）、例（5）のようなアンケートを 23 問実施した。

- (4) ドア [を / が] 風でバタンと (閉めた / 閉まった)。(守屋 1994 の例①)
 (5) (焼肉店で)「さあ、(焼いた / 焼けた) 肉から、順番に召し上がって下さい」(守屋 1994 の例⑩)

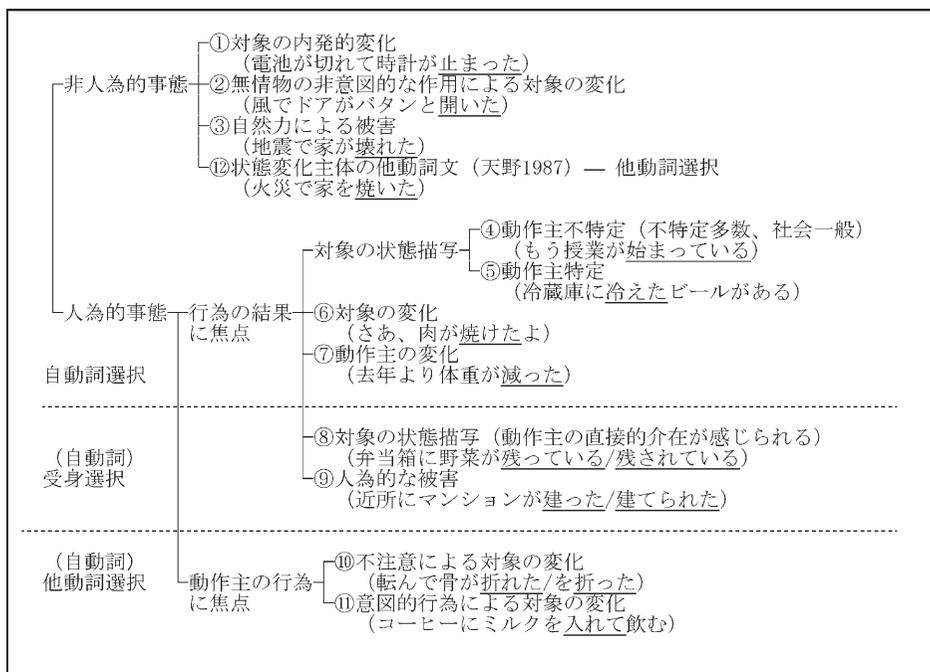
その結果、守屋 (1994) は日本語の自動詞と他動詞の選択基準には図Aのような条件が関わるとして、条件2~4の場合には人為的なイベントであっても自動詞が選択されると述べている。また、「動詞の自他の選択の難しさは、程度の差はあれ、自動詞選択のむずかしさにある」(p.163)として、図Aの条件のうち「1から4へと次第に習得が難しくなっていく」(p.163)ことを指摘している。



図A 守屋 (1994) の自他動詞の選択条件

守屋 (1994) は、日本語の自他選択には①人為的行為か否か、②動作主が特定の可否か、③話し手の関心が行為にあるのか結果にあるのかが関わることを示し、学習者は①②③の順にその処理が難しくなることを指摘している。ただし、②の動作主の特定・不特定に関しては分類基準が恣意的であるため、本研究では動作主が特定の個人または複数の人物の場合は「特定」、不特定多数や社会一般の場合は「不特定」と考えることにする (したがって図Aの「電話がかかってきた」の例は本研究では「主体特定」となる)。

これらの先行研究を受け²⁾、杉村 (2013a-d, 2014a-e, 2015a-d, 2016) では、守屋 (1994) の事態の分類を図Bのように修正し、調査対象に受身を加えて、日本人と中国語話者、韓国語話者、中朝バイリンガル、ウズベク語話者、クメール語話者の自動詞・他動詞・受身の選択意識の違いを比較した。



図B 本研究における事態の分類と日本語母語話者の選択傾向

その結果、日本人は自然現象であればたいいの場合に自動詞を選択するのに対し、中国人日本語学習者は「電池が切れて時計が止まった」のように対象の内発的变化を表す場合には自動詞の選択率が高いものの、風力など外力の影響を受ける場合には他動詞や受身の選択率が上がることを指摘している。

本研究ではこの杉村 (2013a-d, 2014a-e, 2015a-d, 2016) の研究を受け、アメリカ人日本語学習者の自動詞・他動詞・受身の選択意識の違いを明らかにする。

3. 調査の概要

本研究ではアンケートによる自動詞・他動詞・受身の選択テストを利用して分析を行う。アンケートは先の図Bに示した12の事態にそって日英それぞれ60問作成した。日本語のアンケートは、例(6)のように被験者に格助詞「が/を」と「自動詞/他動詞/受身」の組み合わせのうち最も適当だと思うものを一つ選択させるという形式である。

(6) 電池が切れて時計 (が/を) (止まった/止めた/止められた)。

さらに、アメリカ人日本語学習者の母語である英語の影響を見るために、例(7)のように日本語アンケートを英語に訳したものを作成した。ただし、英語アンケートは日本語アンケートを直訳したものであるため、実際とは多少ずれる場合もある。

- (7) ① The watch stopped because of dead batteries. (自動詞表現)
② Dead batteries stopped the watch. (他動詞表現)
③ The watch was stopped because of dead batteries. (受身表現)

以上日英各60問のうち、本稿では事態の成立が自然現象によって起こる「非人為的事態」(図Bの事態①②③)を中心に考察する。それに加え「人為的事態」の典型例である「意図的行為による対象の変化」(図Bの事態④)についても比較の対象として取り上げる。以下、本研究の被験者と調査の時期・場所について記しておく。アメリカ人日本語学習者は上級のN1合格レベルの被験者が得られなかったため、N2～N3合格レベル程度の学生を被験者とした。

[日本語アンケート]

・日本語母語話者

名古屋大学学部生114名(2012年5月8～10日に名古屋大学にて実施)

・英語を母語とする日本語学習者(アメリカ人日本語学習者)

ウエスタンワシントン大学70人(4年生:12人、3年生:13人、2年生:43人、1年生2人)(2014年2月11、26日、4月3日にウエスタンワシントン大学にて実施)
…全員日本語能力試験を受けていないが、ウエスタンワシントン大学の先生によるとN2～3合格レベル程度であるとのことである)

[英語アンケート]

・英語母語話者

ウエスタンワシントン大学学部生100人(2014年2月11日、4月2、3日にウエスタンワシントン大学にて実施)

以上のアンケート調査をもとに自動詞・他動詞・受身およびねじれ(「を+自動詞」または「が+他動詞」)の選択率を集計した。このうち、本稿で考察の対象とする19の表現をまとめると表1のようになる。表中の選択率は小数点以下第二位を四捨五入して示してあるため、自動詞・他動詞・受身・ねじれの合計がぴったり100%にならないものもある。本稿では日本語の「が+受身」と「を+受身」の区別については立ち入って議論しないため、両者を合わせて「受身」とする。同様に、格助詞と自他動詞のねじれにつ

英語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について
 いても議論の対象としないため、両者を合わせて「ねじれ」とする。また、表中の「日
 本人・日」は日本人の日本語アンケート回答者、「米国人・日」はアメリカ人の日本語ア
 ンケート回答者、「米国人・英」はアメリカ人の英語アンケート回答者を表す。

本稿では「ねじれ」については考慮しないため、後の議論（図1～図19）ではここから
 「ねじれ」の回答を除外して、「が+自動詞」「を+他動詞」「が/を+受身」の合計
 が100%になるように計算し直して、自動詞・他動詞・受身の選択傾向を比較すること
 にする。

表1 自動詞・他動詞・受身の選択テストの結果（数字は選択率%）

	被験者	自動詞	他動詞	受身	ねじれ
事態① (内発的変化)	1. 電池が切れて時計（が/を）（止まった/止めた/止められた）。				
	米国人・英	84.0	3.0	13.0	---
	米国人・日	35.7	14.3	11.4	38.6
	日本人・日	100.0	0.0	0.0	0.0
	2. コンクリートが腐食して橋（が/を）（落ちた/落とした/落とされた）。				
	米国人・英	84.0	11.0	5.0	---
	米国人・日	27.1	21.4	17.1	34.3
	日本人・日	100	0.0	0.0	0.0
	3. 老朽化して家の外壁（が/を）（割れた/割った/割られた）。				
	米国人・英	55.0	16.0	29.0	---
	米国人・日	30.0	11.4	25.7	32.9
	日本人・日	95.6	1.8	2.6	0.0
事態② (無常物の作用)	4. 髪（が/を）（伸びた/伸ばした/伸ばされた）から美容院でカットする。				
	米国人・英	47.0	43.0	10.0	---
	米国人・日	41.4	11.4	8.6	38.6
	日本人・日	98.2	0.9	0.0	0.9
	5. ポケットの中のチョコレート（が/を）体温で（溶けた/溶かした/溶かされた）。				
	米国人・英	74.0	4.0	22.0	---
	米国人・日	32.9	8.6	22.9	35.7
	日本人・日	93.9	3.5	2.6	0.0
	6. 風でドア（が/を）バタンと（開いた/開けた/開けられた）。				
	米国人・英	19.0	74.0	7.0	---
	米国人・日	45.7	18.6	15.7	20.0
	日本人・日	91.2	0.0	8.8	0.0
7. 強風で窓ガラス（が/を）（割れた/割った/割られた）。					
米国人・英	10.0	69.0	21.0	---	
米国人・日	34.3	12.9	27.1	25.7	
日本人・日	93.0	0.9	6.1	0.0	
8. 台風でリンゴの実（が/を）全部（落ちた/落とした/落とされた）。					
米国人・英	1.0	69.0	30.0	---	
米国人・日	28.6	24.3	15.7	31.4	
日本人・日	94.7	0.0	5.3	0.0	

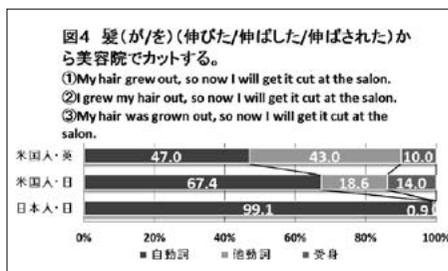
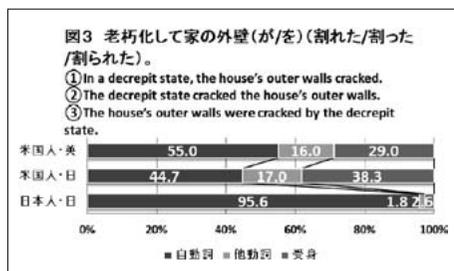
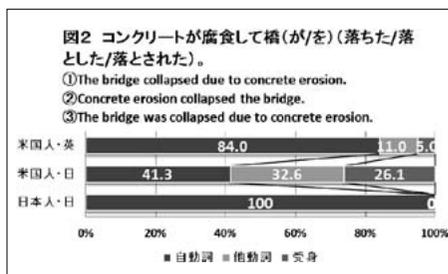
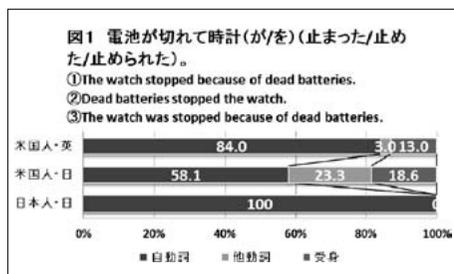
事態② (無常物の作用)	9. 風が強くて蠟燭の火 (が/を) (消えた/消した/消された)。				
	米国人・英	3.0	60.0	37.0	---
	米国人・日	34.3	32.9	14.3	18.6
	日本人・日	97.4	0.9	0.9	0.9
	10. 突風が吹いて人 (が/を) 屋根から (落ちた/落とした/落とされた)。				
	米国人・英	5.0	48.0	47.0	---
	米国人・日	31.4	22.9	24.3	21.4
	日本人・日	83.3	9.6	7.0	0.0
	11. 太陽の光でコップの水 (が/を) 自然に (温まった/温めた/温められた)。				
	米国人・英	31.0	27.0	42.0	---
	米国人・日	30.0	15.7	14.3	40.0
	日本人・日	72.8	0.9	26.3	0.0
事態③ (自然力による被害)	12. 家に帰ったら、窓ガラス (が/を) (割れて/割って/割られて) いた。				
	米国人・英	4.0	35.0	61.0	---
	米国人・日	24.3	20.0	25.7	30.0
	日本人・日	47.4	0.0	52.6	0.0
	13. 火災で家 (が/を) (焼けた/焼いた/焼かれた)。				
	米国人・英	11.0	37.0	52.0	---
	米国人・日	21.4	15.7	22.9	40.0
	日本人・日	90.4	0.0	6.1	3.5
	14. 奈良の大仏 (が/を) 火災で何度も (焼けて/焼いて/焼かれて) いる。				
	米国人・英	18.0	16.0	66.0	---
	米国人・日	21.4	12.9	31.4	34.3
	日本人・日	66.7	2.6	29.8	0.9
15. 地震で家 (が/を) (壊れた/壊した/壊された)。					
米国人・英	1.0	64.0	35.0	---	
米国人・日	42.9	18.6	18.6	20.0	
日本人・日	91.2	0.0	8.8	0.0	
事態① (意図的行為)	16. コーヒーにミルク (が/を) (入って/入れて/入れられて) 飲む。				
	米国人・英	3.0	96.0	1.0	---
	米国人・日	5.7	58.6	4.3	31.4
	日本人・日	2.6	95.6	1.8	0.0
	17. 目が悪くなったので、眼鏡 (が/を) (変わった/変えた/変えられた)。				
	米国人・英	5.0	80.0	15.0	---
	米国人・日	2.9	35.7	11.4	50.0
	日本人・日	1.8	98.2	0.0	0.0
	18. おや、髪 (が/を) (切れた/切った/切られた) んだ。				
	米国人・英	1.0	90.0	9.0	---
	米国人・日	18.6	48.6	8.6	24.3
	日本人・日	1.8	98.2	0.0	0.0
19. 電子レンジで冷えたスープ (が/を) (温まった/温めた/温められた)。					
米国人・英	4.0	33.0	63.0	---	
米国人・日	21.4	28.6	10.0	40.0	
日本人・日	5.3	90.4	4.4	0.0	

4. 事態別に見る自動詞・他動詞・受身の選択傾向

4.1 対象の内発的变化を表す場合（事態①）

本節では対象の内発的变化を表す場合（事態①）の自動詞・他動詞・受身の選択傾向について論じる。内発的变化とは「電池が切れて時計が止まる」のように外力によらず時間的経過による対象の自発的变化を表すもののことである。この場合、図1～図4のように、日本人はほぼ100%自動詞を選択する。

一方、アメリカ人日本語学習者の日本語は自動詞の選択率が41.3～67.4%と低くなっている。この点で、N2合格レベルでも自動詞の選択率が70%以上ある韓国人日本語学習者や中国人日本語学習者とは対照的である³⁾。「電池切れによる時計の停止」や「コンクリートの腐食による橋の落下」の場合、英語でも自動詞の選択率が84.0%と高いのに、日本語では自動詞が選択できないようである。これに対し、「老朽化による外壁の割れ」の場合は、英語の選択率と日本語の選択率が似たような傾向を示している。また、「成長による髪の伸び」の場合は、英語では自動詞と他動詞の選択率がほぼ半々であるのに対し、学習者の日本語では自動詞の選択率が67.4%と図1～図4の中では一番高くなっている。



4.2 無情物の非意図的な作用を表す場合（事態②）

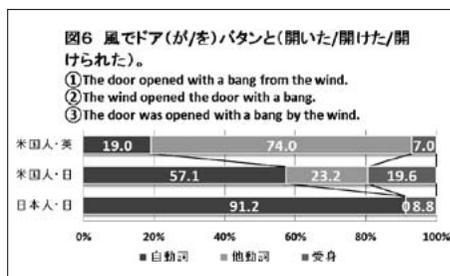
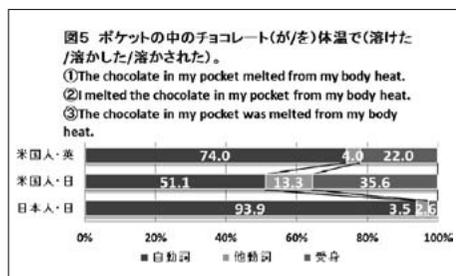
本節では無情物の非意図的な作用を表す場合（事態②）について論じる。無情物の非意図的な作用とは「風でドアが開く」のように風や光や熱などの外的な自然作用による

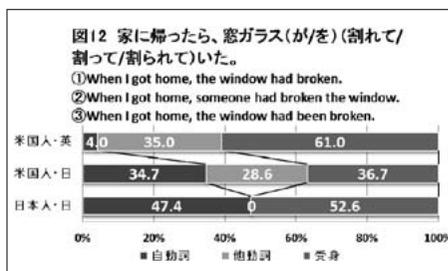
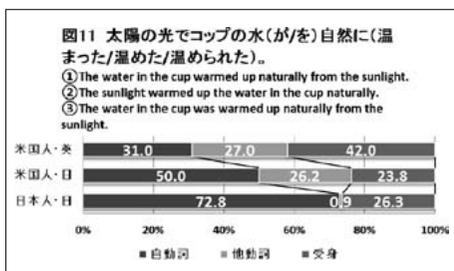
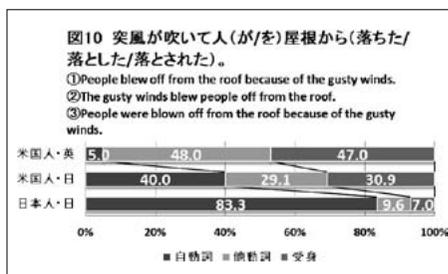
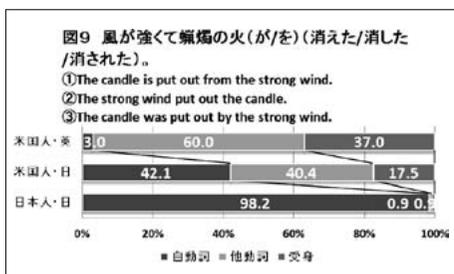
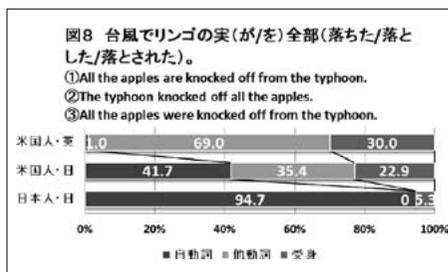
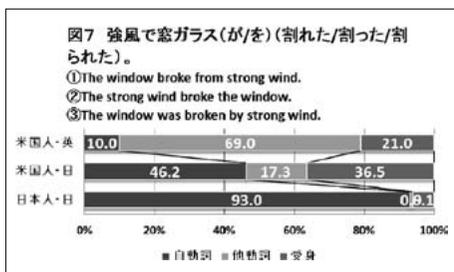
対象の変化を表すものことである。この場合も、図5～図11のように、日本人は自動詞の選択率が72.8～98.2%以上と高い。

一方、図5～図11において、アメリカ人日本語学習者の日本語は、自動詞の選択率が40.0～57.1%と低くなっている。この点で、韓国人日本語学習者よりも自動詞の選択率が若干低く、中国人日本語学習者と似たような傾向が見られる。このうち図6～図11の場合、英語ではその事態を引き起こす風や光を作用主体として捉え、他動詞または受身で表現されやすいため、その影響で日本語も他動詞や受身が選択されるとも考えられる。しかし、図5の場合は英語でも自動詞の割合が74.0%と高いにもかかわらず、アメリカ人日本語学習者は日本語では51.1%しか自動詞を選択していない。

また、図12を見ると、日本人は自動詞と他動詞の選択率がおおよそ半々になっている。これは図12で窓ガラスが割れたのは人為によるものであるともそうでないとも取れるからである。このような場合、英語では受身の選択率が61.0%と最も多くなっている。しかし、アメリカ人日本語学習者の日本語は受身の選択率が36.7%しかなく、自動詞や他動詞の選択率がそれぞれ30%前後ある。

ここで4.1の対象の内発的变化を表す場合（事態①）の選択率と比べると、アメリカ人日本語学習者は事態①でも事態②でも自動詞の選択率はおおよそ50%前後で共通していることに気づく。この点で、N2合格レベルの韓国人日本語学習者や中国人日本語学習者の場合に、事態①では自動詞の選択率が相対的に高く、事態②では自動詞の選択率が相対的に低くなるのとは異なっている。このことから、アメリカ人日本語学習者は、内発的变化の場合も風、光、熱などの外的な自然作用による対象の変化を表す場合も、母語の自他受身の選択とは必ずしも関係なく、おおよそ50%前後の割合で自動詞を選択することが分かる。





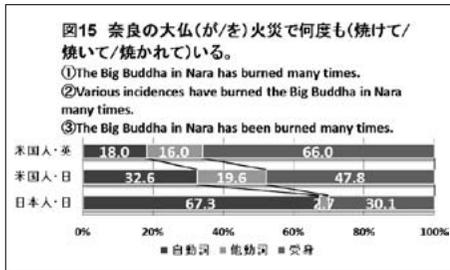
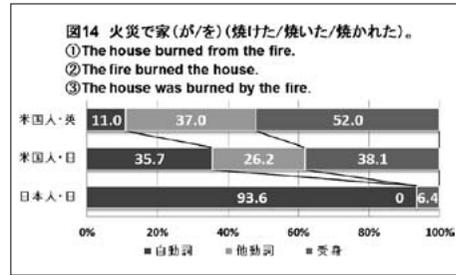
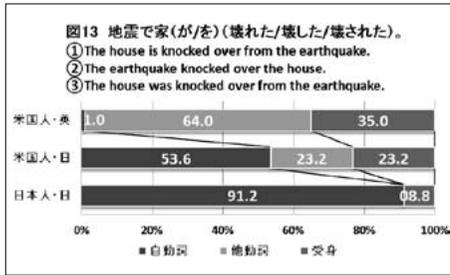
4.3 自然力による被害を表す場合 (事態③)

本節では自然力による被害を表す場合 (事態③) について論じる。これは事態②に被害の意味が伴ったものである。この場合も、図13の「地震による家屋の倒壊」や図14の「火災による家屋の焼失」のように、日本人は自然現象であることに反応して自動詞の選択率が90%以上と高くなる。しかし、図15の「度重なる火災による大仏の焼失」ように被害の意味が強くなると自動詞の選択率が67.3%に下がり、受身の選択率が30.1%に上がる。あるいは図15は歴史の教科書のような客観的な表現であるため受身の選択率が上がるとも考えられる。

一方、アメリカ人日本語学習者の日本語は、図13～図15のいずれも自動詞の選択率が32.6～53.6%で日本人より低くなっている。この点で、N2合格レベルの韓国人日本語学習者や中国人日本語学習者の自動詞の選択率が19.7%～62.5と低いのと似ている。この場合、英語では自動詞の選択率が1.0～18.0%と極めて低く、母語である英語の影響で自動詞の選択率が低くなったと考えられなくもない。しかし、その割には自動詞の選択

率がさほど低いわけではない。

ここで4.1の事態①や4.2の事態②の選択率と比べると、アメリカ人日本語学習者は事態①でも②でも③でも自動詞の選択率はおよそ50%前後で共通していることに気づく。このことから、アメリカ人日本語学習者は、内発的变化の場合も、外的な自然作用による対象の変化を表す場合も、自然力による被害を表す場合も、同じ非人為的事態としてあまり区別せずに捉えていることが推察される。この点で、韓国人日本語学習者や中国人日本語学習者よりも顕著な特徴を見せている。



4.4 動作主の意図的な行為を表す場合（事態①）

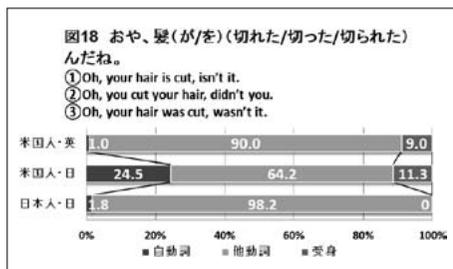
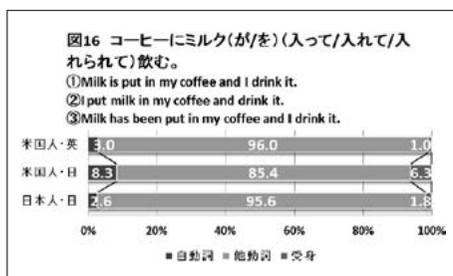
本節では動作主の意図的な行為を表す場合（事態①）について論じる。動作主の意図的な行為とは「コーヒーにミルクを入れる」のように動作主が何らかの目的のために当該の行為を行うことを表すものである。この場合、図16～図19のように、日本人はいずれの場合も他動詞の選択率が高くなる。

一方、アメリカ人日本語学習者の日本語は、図16～図17では他動詞の選択率が71.4～85.4%と高い。この場合、英語でも動作主の意図的な行為を表す場合は他動詞の選択率が80%以上と高く、日本語でもその感覚で捉えられていることが分かる。ただし、図17では英語も日本語も受身の選択率が20%前後現れている。これに対し、図18の場合は、英語では他動詞の選択率が90.0%と高いものの、アメリカ人日本語学習者の日本語は他動詞の選択率が64.2%しかなく、自動詞の選択率が24.5%もある。また、図19の場合は、英語では他動詞の選択率は33.0%しかなく、受身が63.0%と高くなっている。こ

英語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について

これは主語を特定せず someone としたためかもしれない。この場合、アメリカ人日本語学習者の日本語は自動詞が 35.7%、他動詞が 47.6%、受身が 16.7%となっており、他動詞の選択率は日本人ほど高くなく、自動詞の選択率が高めている。

事態①の場合、2級合格レベルの韓国人日本語学習者と中国人日本語学習者は図 16 や図 19 では他動詞の選択率が高いが、図 17 は中国人日本語学習者の自動詞の選択率は 25.4%あり、図 18 は韓国人日本語学習者と中国人日本語学習者の自動詞の選択率は 21.7～24.2%ある点が注目される。このことから、日本人にとっては同じ動作主の意図的な行為を表す表現に見えても、各言語話者にはヴォイスの点で異なるタイプの表現として捉えられている可能性があると考えられる。本稿では事実の指摘の域を出ないが、今後このようなタイプの違いについて明らかにする必要がある。



5. まとめ

以上、本研究では英語を母語とする日本語学習者（アメリカ人日本語学習者）における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択意識のうち、主に非人為的事態の場合について論じた。以下、事態①②③①の概要を整理しておく。

・対象の内発的变化を表す場合（事態①）

日本人は自動詞の選択率がほぼ 100%と高いのに対し、アメリカ人日本語学習者は全体的に自動詞の選択率が 50%前後とあまり高くない。

・無情物の非意図的な作用を表す場合（事態②）

日本人は自動詞の選択率が70%以上と比較的高いのに対し、アメリカ人日本語学習者は全体的に自動詞の選択率が50%前後とあまり高くない。

・自然力による被害を表す場合（事態③）

火災による焼失や地震による倒壊の場合、日本人は自然作用であることに反応して自動詞の選択率が90%以上と高いのに対し、アメリカ人日本語学習者は全体的に自動詞の選択率が50%前後とあまり高くない。ただし、日本人も「度重なる火災」のように被害の意味が強くなると受身の選択率が上昇する。（図19の場合、歴史の教科書のような客観的な表現であるため受身の選択率が上がるとも考えられる。）

・動作主の意図的な行為を表す場合（事態①）

日本人は他動詞の選択率が90%以上と高いのに対し、アメリカ人日本語学習者は他動詞の選択率が一番高いものの、場合によって自動詞や受身の選択率も25~35%程度現れている。

本稿はいまだ実態調査の域を出ていないが、アメリカ人日本語学習者は韓国人日本語学習者や中国人日本語学習者と比べて事態①~③の違いをあまり区別していないことが伺われた。次号『言語文化論集』38-2では人為的事態の場合について論じる予定である。

付記：本稿は平成25-27年度日本学術振興会科学研究費基金（挑戦的萌芽研究）「日本語学習者の自動詞・他動詞・受身の選択意識と母語転移に関する実証的研究」（研究代表者：杉村泰、課題番号25580111）による研究成果の一部である。

注

- 1) 「人為的事態」については次号『言語文化論集』38-2（2017年3月発行予定）で論じる。また、人為的事態のうち「動作主の不注意による対象の変化を表す場合」については『ことばの科学』30（名古屋大学言語文化研究会編、2016年12月発行予定）で論じる。
- 2) 小林（1996）、中村（2002）、曾（2012）については杉村（2013b）で論じたので、ここでは省略する。守屋（1994）についても杉村（2013b）で論じたが、本研究の事態の分類のもとになるものであるため、再度取り上げることにする。
- 3) 杉村（2014c）では台湾人日本語学習者のN1、N2、N3合格レベルの自他受身選択の違いについて論じた。韓国人日本語学習者および大陸の中国人日本語学習者のN1、N2合格レベルの自他受身選択については、今後論じる予定である。

参考文献

- 天野みどり (1987)「状態変化主体の他動詞文」『国語学』第 151 集, 国語学会, pp.110-97 (左 1-14)
- 小林典子 (1996)「相対自動詞による結果・状態の表現—日本語学習者の習得状況」『文藝言語研究・言語篇』第 29 卷, 筑波大学文芸・言語学系, pp.41-56
- 杉村 泰 (2013a)「対照研究から見た日本語教育文法—自動詞・他動詞・受身の選択—」『日本語学』2013 年 6 月号・第 32 卷第 7 号 (通巻 410 号), 明治書院, pp.40-48
- 杉村 泰 (2013b)「中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について—一人為的事態の場合—」『日本語／日本語教育研究』[4] 2013, 日本語／日本語教育研究会・ココ出版, pp.21-38
- 杉村 泰 (2013c)「中国語話者の日本語使用に見られる有対動詞の自・他・受身の選択—被害や迷惑の意味を表す場合—」『漢日語言対比研究論叢』第 4 輯, 漢日対比語言学研究 (協作) 会編・北京大学出版社, pp.275-286
- 杉村 泰 (2013d)「中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について—動作主の不注意による対象の変化を表す場合—」『ことばの科学』第 26 号, 名古屋大学言語文化研究会, pp.153-170
- 杉村 泰 (2014a)「中国語母語話者における自動詞、他動詞、受身の選択—一人為性に対する認識の違い—」『日語教育与日本学研究—大学日語教育研究国際研討会論文集 (2013)—』, 華東理工大学出版社, pp.6-11
- 杉村 泰 (2014b)「延辺大学生における日本語の自・他・受身の選択—中国語母語話者と中朝バイリンガルの比較—」『中朝韓日文化比較研究叢書—日本語言文化研究』第三輯 (上), 延辺大学出版社, pp.548-554
- 杉村 泰 (2014c)「台湾人日本語学習者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について」『銘傳日本語教育』第 17 期, 銘傳大学教育暨応用語文學院応用日語学系出版, pp.67-91
- 杉村 泰 (2014d)「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について—一人為的事態の場合—」『名古屋大学言語文化論集』第 36 卷第 1 号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.31-45
- 杉村 泰 (2014e)「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について—動作主の不注意による対象の変化を表す場合—」『ことばの科学』第 28 号, 名古屋大学言語文化研究会, pp.145-156
- 杉村 泰 (2015a)「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について—一人為的事態の場合—」『名古屋大学言語文化論集』第 36 卷第 2 号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.47-62
- 杉村 泰 (2015b)「日・中・韓・ウズベク語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択」『東アジア日本語・日本文化研究』第 19 集 特別号, 東アジア日本語日本文化研究会, pp.1-18
- 杉村 泰 (2015c)「クメール語を母語とする日本語学習者における中国語の自動詞・他動詞・受身の選択について—一人為的事態の場合—」『名古屋大学言語文化論集』第 37 卷第 1 号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.31-44
- 杉村 泰 (2015d)「クメール語を母語とする日本語学習者における中国語の自動詞・他動詞・受身

- の選択について—動作主の不注意による対象の変化を表す場合—」『ことばの科学』第29号, 名古屋大学言語文化研究会, pp.105-120
- 杉村 泰 (2016) 「クメール語を母語とする日本語学習者における中国語の自動詞・他動詞・受身の選択について—人為的事態の場合—」『名古屋大学言語文化論集』第37巻第2号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.49-62
- 曾ワンティン (2012) 『中国語母語話者における有対他動詞の受身表現と自動詞の使い分けについて』名古屋大学修士学位論文
- 中村祐理子 (2002) 「中級学習者の受身使用における誤用例の考察」『北海道大学留学生センター紀要』第6号, 北海道大学留学生センター, pp.21-36
- 守屋三千代 (1994) 「日本語の自動詞・他動詞の選択条件—習得状況の分析を参考に」『講座日本語教育』第29分冊, 早稲田大学日本語研究教育センター, pp.151-165

言語文化論集

Studies in Language and Culture

第ⅩⅧ卷
第1号

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

Graduate School of Languages and Cultures
Nagoya University

2016